

第1回 塩竈市地域公共交通会議 議事録

日 時：令和5年4月19日（水） 13：15～14：00

場 所：塩竈市役所2階会議室

出席委員：千葉会長、長尾委員、熊谷委員、吉本委員、船山委員、土井委員、郷家委員、平山委員、植松委員、長谷部委員、佐藤委員、浅野委員、本多委員、長峯委員、草野委員（計15名）

欠席委員：中村委員

事務局：塩竈市総務部政策課

1. 会議目的

しおナビ100円バス、NEWしおナビ100円バスについて、コロナ禍における外出自粛や燃油価格の高騰など、社会環境の大きな変化を受け、事業継続が難しい状況に差し掛かってきたことから、事業者、市民の代表、また行政機関としての専門的知見などを踏まえ、今後の方針や考え方について協議いただくもの。

2. 協議結果

本日挙げられた様々な意見や視点を参考に、今後の望ましいバス事業のあり方を検討し、引き続き協議を重ねる。

次回開催は5月下旬予定とし、詳細は追って事務局より連絡する。

3. 議事要旨

[協議事項について]

- ・しおナビ100円バス、NEWしおナビ100円バスの現状について
事務局から協議事項について説明

[質疑等]

吉本委員：9ページに記載のバス運営状況について収益の推移のシミュレーションがあるが、この根拠は何か。またバス事業を維持するためには何らかの対策が必要かと思うが、どのように考えているのか。

事務局：乗員数については、第6次塩竈市長期総合計画にて示されている本市人口推移を参考に、減少率を過去の乗客数に掛けて算出している。経費については、消費者物価指数等の推移割合に対し令和5年度契約額、令和4年度実績の各経費を掛けて算出している。今後の対策については、本日時点では現状を知ってもらうことを本題としているため、今後の会議を重ねる中で何等かの案を提示し考えを伺いたいと考えている。

千葉会長：近隣市町のコミュニティバスについて、本市への乗り入れはあるのか。

事務局：利府町民バス「りふっと」、七ヶ浜町民「ぐるりんこ」、大郷町住民バスが本市内に乗り入れられている。本市民も利用可能である。

千葉会長：事業者の皆様は非常に厳しい中、事業継続されている。一方で本市高齢化率は約35%になっており、非常に高い数値である。そのため地域に身近な公共交通のあり方というのは非常に大事な視点となるが財源も限られている。その上で様々なご意見等を頂きたい。

長尾委員：過去に値上げの話は出たが、実際に値上げには至らず100円を維持してきた。仮に値上げを再検討する場合、いくらが妥当なのか検討が必要になるのでは。

千葉会長：次回の会議では、料金シミュレーションや他自治体の事例を示しながら検討できるようにしたい。

郷家委員：収益の分岐点としては、1日どれくらいの乗客人数となるのか。

事務局：詳細についてまだ試算はしていない。料金で考えた場合、150円というのが一つの分岐になるという話は内部であった。詳細は調査のうえ、次回示す。

植松委員：バス事業は他地域でも厳しい状況にある。今後は地域公共交通会議を通じて持続可能な交通体系を市民、各団体関係者と議論していく必要がある。また、行政として医療や買い物など集約するような都市計画をどのようにするかといった大きな視点も必要となる。努力義務として公共交通計画の作成があるが、それだけではなく市の計画として観光などと連動し、どのように街を集約化していくかが今後必要な視点となる。

千葉会長：本市面積は大きくなく、道路が場所によって狭い。住むエリアによって利便性も異なる。本市各施設老朽化が進み建て替えも検討している中、コンパクトシティ形成に向けた国の方針もある。頂いた助言を参考に、市民の皆様が利用しやすいよう施設の集約といった視点も持ち検討していきたい。

長谷部委員：県内の各地域公共交通会議に出席しているが、各市町村それぞれの基準なども伺っている。地域によっては定時定路線のコミュニティバスの維持が難しく、デマンド型のサービスに移行している。また別の地域ではデマンド型サービスも難しいというところもある。厳しい状況下でも、住民のニーズを知ってより良い交通手段を確保していただきたい。各地域の話を伺っているので、情報提供も可能である。

浅野委員：今の交通情勢について、高齢者が死亡・人身事故の第一当事者となっている。地域公共交通が充実していれば、高齢者が自動車を運転する機会も減り、交通事故も少なくなる。公共交通を推進することで、免許返納を選択する方も増える。デマンド式のタクシーなどもあるが、そういったものも普及すれば悲惨な交通事故は減らせる。免許を返納した方がより簡単に公共交通を利用できるシステムなどを検討し、アピールしてほしい。

事務局：NEWしおナビ100円バスは免許返納者の減免制度を設けているが、広報活動を進めていくとともに公共交通利用拡大に向けた検討を重ねたい。

千葉会長：令和6年度からの時間外労働の上限規制により物流業界は困惑されていると聞く。ミヤコーバスで影響は出ているか。

長尾委員：時間外がオーバーする方は、ほとんどいない。現在でも一時的に時間外が増えた方は産業医と面談するなど対策は取っている。翌日までの休息时间（勤務間インターバル制度）について、今までは8時間であったが、今年から9時間の休息を取り、徐々に10時間取れるように進めている。法律が変われば都度対応している。

千葉会長：運送事業者のスタッフについて、今後も充足していける見込みはあるのか。

長尾委員：運転手は不足し、若い方はほとんどいない。運転手も高齢化が進み苦しくなっている。

千葉会長：本日は様々な視点、行政だけではわからないことを教えていただいた。望ましいバス事業のあり方について、今後も引き続き検討をお願いしたい。

以上